

令和7年度 第1回旭市総合戦略推進委員会

議事録【要約】

日時：令和7年10月2日（木）10：00～12：20

場所：旭市役所3階 政策決定室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	鈴木 正雄 委員	出
中西 翔太 委員	欠	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	出
嶋田 隆 委員	出	奈良 暁子 委員	出	加瀬 好基 委員	出
佐藤 勝彦 委員	出	梅田 和男 委員	出	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	出	嶋田 明範 委員	出	山口 泰弘 委員	出
花香 真菜 委員	欠	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	出

《副市長》 柴 栄男

《事務局》 旭市企画政策課：榎澤課長、江戸副課長、加瀬副課長、角川班長、
川瀬、高木、木内

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 資料1-1～1-5 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料2 重点プロジェクト 総合評価
- ・ 資料3 基本施策評価シート（定住自立圏共生ビジョン掲載事業含む）
- ・ 資料4 重点施策、基本施策別KPI達成度総括表
- ・ 資料5 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業結果

（当日配布）

- ・ 席次表
- ・ 総合戦略推進委員会に係る意見等（様式）
- ・ 資料5（差替え）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業結果
- ・ 資料6 過疎地域持続的発展計画（概要）
- ・ 参考資料 旭市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～7年度）
- ・ 参考資料 千葉県の過疎地域（指定状況図）

○ 会議内容

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・欠席委員の報告

2 委嘱書の交付

3 副市長あいさつ

4 委員紹介

- ・委員より自己紹介
- ・事務局紹介
- ・委員長及び副委員長の選出

→委員長に鎌田元弘委員 副委員長に柳明美委員が選出される。

5 説明

事務局： 4つの「重点プロジェクト」と「旭市生涯活躍のまち構想」、デジタル田園都市国家構想交付金事業について、いただいた意見の内容の整理、とりまとめを事務局に一任させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長：シートの意見記入欄のとりまとめについて、事務局に一任ということですが、皆様いかがでしょうか。

（異議なし）

委員長：ありがとうございます。事務局一任とさせていただきます。

委員長：引き続き、（１）第２期旭市総合戦略の評価について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：地産振興プロジェクト「資料１－１重点施策マネジメントシート」「資料２重点プロジェクト総合評価」について説明

委員： 季楽里あさひは、年間売り上げは順調だと思う。市の顔の一つになっているが、現在レストランが閉店し困っている人がいて残念だという人がいた。

事務局： 現在、農水産課で担当していますが、以前の会議でも、ぜひレストランで高校生とコラボした商品を出すなど来々となるような工夫が必要だと意見をいただきました。魅力的な場所があ

ることで人が集まってきますので、担当課の方にご意見をお伝えします。

委員： 総合評価として目標指標はS評価、K P IはD評価やC評価などあるが、地産振興プロジェクトとしてはS評価という理解で良いか。

事務局： 目標指標とK P Iで4つあるが、目標指標の開设法人の年間件数がS評価ですので、この重点プロジェクトの評価として判断いただいて構いません。

委員長： 評価で計画期間の平均値に対して、当然目標値が高ければ状況が違ってくる。例えば農業産出額がD評価になっているが、その目標値は非常に高く計画期間の実績平均で評価している。しかし、旭市の農業はダメなのかというと、そう短絡的な評価では無いことを承知してもらいたい。

委員： 養豚や養鶏などが増収でもD評価となっている。それ以外が相当落ち込んでいると考えられるのか。

事務局： 畜産が増えている中で、詳しい資料が無いのですが、田んぼや畑といった耕種が落ちている状況があります。養豚養鶏と同様に大事な一次産業でありますので、支援をしっかりと検討してもらいたいという意見もいただいています。

委員： 養豚養鶏などは物価が高騰したことによって増収になったと捉えられると思うが、金額が増加したことで評価が高くなったのか、産出量なのか。

事務局： 畜産分野ですと、やはり豚肉、鶏卵の価格上昇は大きな要因です。基準値である 582 億円は平成 29 年度の一番高かった時になります。旭市は、全国ランキングで 6 位とか 5 位といった順位を維持していますが、評価は基準値と比較した場合となります。金額の上昇に関しては、価格上昇が主な要因となります。

委員長： 特に物価スライドして評価しているということでは無いのか。

事務局： はい。

委員： K P Iの旭市地域職業相談室における紹介成功率のハローワーク銚子管内有効求人倍率が記載されている。世の中は人手不足と聞いているが思ったより低いなど感じる。これは周りの地域と比べてどうなのか。また、紹介成功率（令和 6 年度実績）の 33.4%は、どういった職種で成功率が高いのか、需要と供給のミスマッチがあるのか情報があれば教えてほしい。

事務局： 紹介成功率は、例えば就職した人が 1 人いて、その人に 3 件の求人を紹介したら 33%になります。県内ではハローワーク銚子での紹介成功率は高い方です。紹介成功率が高い職種については確認いたします。

委員： 直近で8月29日に7月分の有効求人倍率が発表され、令和6年度ですと千葉県は1.00倍で、ハローワーク銚子が0.92倍なので少し低い状況である。しかし、最新のハローワーク銚子の有効求人倍率は1.03倍で、求職者が減っていて、反対に求人の方が増えている状況である。

委員： 農業産出額がD評価ですが、全国ランキングで5位、常にトップクラスで居続けて、かつ県内では継続して1位はとても素晴らしいことだと思う。また、道の駅の売り上げが上昇している。キャッシュレス決済が導入され私も買い物をしている。駐車場が満車な時もあり、ナンバーを見ると遠方から来る方も多いと感じている。これまで店内レイアウトも変更しながら苦労していると思う。

委員長： 総合評価だけでは暗くなりがちであるが、市民目線の肌感覚の意見があると、今後の改善に向けて進んでいけると思う。

委員： 旭市職業相談室利用者の就職者数が令和6年度で541件であるが、これは県内で一番多い数字である。ハローワークの求職者も減少していて、民間の職業紹介機関の利用が多くなっている。また、ハローワークにおける総合評価では、就職件数をホームページで公表しているが、紹介成功率は掲載していない。

委員長： 統計値で考えるときに、何と比較するか、どこの時点を捉えるか。最終的な成果としてのアウトカムは、市民目線で分かりやすくなるよう関係機関と調整してほしい。

委員： 数値目標の開設法人の年間件数のS評価は、令和2年度の数字は高いが、令和5年度から下がっているのが気になる。今後の傾向など分かれば教えてほしい。次に、職業相談室の紹介成功率のところで、移住者の相談を受けているが、当たり前に住むところと仕事はセットである。同じ建物の職業相談室とも連携しているが、県の仕事ナビというサイトから就職すると補助金があるので、職業相談室を選ぶ人が少なくなる。就職者とのマッチングを重視するなら、就職者数をKPIとして考えていく必要がある。観光について、資料1-1の2ページ目で施策の方針として市のイベントについての記載があるが、七夕まつりなど外部の協力が多くなっていて、今後も継続していけるか心配である。

事務局： 開設法人の令和6年度は設置法人（もともとある法人が事業所を設置）が減少していますので、そこが増加していくと良いと思います。次に、紹介成功率のKPIについては、紹介数が増えると成功率が下がってしまうので、次の第3期総合戦略では地域職業相談室の紹介者数に変更しています。最後に、雇用面では雇用対策協議会などありますが、雇用の増加を考えれば職業相談室や県の仕事ナビなどの媒体は多いほうが良いと思います。あと観光の面で、実行委員会などで行っていますが、今後の継続的なところに関しては市内部でも共有します。

委員： 評価は実績を平均した数値で目標値と比べていますが、例えば1番目の開設法人の年間件数は、目標値が62件に対し、実績平均値が67件で目標を超えるが、令和6年度の実績は54件

であり年々下がってきているのにS評価となったことを楽観視して良いのか疑問なので、そこを講評欄で少し触れたほうが良い。一方で、農業産出額は目標値 590 億円に対し実績の平均値は 497 億円となり評価は低いですが、年々回復傾向にあり、令和 6 年の実績値は 559 億円と近づいているので、市民が見たときにD評価でも、もう少しそういった観点の記載があった方が良いのではないかと。

委員長： 確かに、ここ数年実績値が良いとか、中央値が高いとか、そもそも基準値が例外値に近いなどがあることを理解できると良い。

事務局：子宝育成プロジェクト「資料1-2 重点施策マネジメントシート」「資料2 重点プロジェクト総合評価」について説明

委員： 出会いコンシェルジュの立ち上げに参加し、講師としてイベントに参加してきた。当初は、婚活という言葉も無い時で結婚を目的に行ってきたが、最近では人が集まるように恋活と呼ばれ結婚に向かっていないと感じる。この事業の成果を数字で出していくことはどうなのか。

事務局： 確かに、婚活から恋活という形で動いていますが、ゴールとしては結婚というところを見えています。時代とともに、結婚を全面に押し出すのではなくて、イベント内容も工夫を凝らした共同作業など面白そうなイベントを企画しています。それでも、担当課ではしっかり結婚というところを意識して行っています。

委員： 婚活に行くというと参加者もあまり気持ちがよくないようです。あと、参加者からは話せる時間が短いと言う方もいるので、イベント内容も物を作ることも良いが、話せる時間が欲しい人もいます。また、最近は参加者の年齢層を決めて実施している。結婚に向けて話がまとまると本当に嬉しい。現在コンシェルジュの委員の中には、このイベントで結婚した方もいるので、そういった方の意見を聞きながら、もう少し内容を検討してほしい。

委員： 先ほど、この事業の婚姻数を成果として出していくことはどうなのか意見したが、補足すると、この事業が良くないというわけではなく、この事業だけの婚姻数をKPIとしてみていくと、この事業が駄目なのかという評価になってしまうのはよくないと思っている。

事務局： これからは市全体の婚姻数を指標として数値を捉えていくよう見直しています。今年度からの第3期総合戦略のKPIから変わっています。

委員： 家庭教育学級の参加率について、基準値の平成30年度で46.0%ですが、この時と比べて令和2年度から6年度で数字が低い理由はあるか。また、参加者へアンケートなどは取っているか。

事務局： 基準となった平成 30 年度は、たまたま数値が高かった年でありました。やはり担当課も参加率の減少は課題と認識しています。参加者から小さいこどもがいる家庭は参加しにくいという声や、魅力的な講師の選定など、参加者にアンケートを取りながら担当課で工夫をしているところです。

委員： 家庭教育学級の開催時期は、それぞれ各年度で違うのか。例えば平日の開催時間などは。

事務局： 開催時期については、これまで平日だったものを、やはり休日をはさむと参加しやすくなるということで、2日のうち1日を休日に変更するなど工夫しています。

委員： 旭市の出生数は県や全国平均より高くなっているところだが、晩婚化や生活の経済的な負担を考えてこどもを生まないということもあるが、今は治療をしてこどもを授かる人も多くなっていると感じている。資料 1-2 の記載でも、令和 7 年度 4 月から不妊治療と併せた先進医療に対して助成を行っていくとあるが、健康上の問題もあるということを視点に加えてもらうよう検討してほしい。あと、子宝育成プロジェクトは出産から子育てが大事という視点のプロジェクトで、旭市で育てたいと思ってもらうために、県内では流山市で転入が多く、交通の利便性が良いこともあるが、旭市が落としこめるところを成功している自治体との連携会議などがある、その中で必要なところをピックアップして進めてほしい。

事務局： 市では新たに先進医療の不妊治療を市独自で支援をはじめ、経済的な負担の軽減を図っています。先ほどの健康問題のご意見については、担当課と共有をいたします。また、子育ての面ですが、本市でも様々な支援を行っているところですが、庁内で会議をしたときに、そのPRが大事で旭市はいいねと思ってもらえるように、現在子育て支援に特化したサイトの作成も進めているところです。新たな支援は財政的な部分もあるのですべてができるわけではありませんが、良いところは参考とするため先進地の視察や情報収集をして検討していきます。

委員： 評価の仕方ですが、基本的には平成 30 年頃の実績と、5 年間の実績の平均を比較しているが、それだと先ほどもあったが農業産出額のように全国トップクラスにもかかわらずD評価になってしまっている。相対評価だけだと極端に低くなったり高くなったりすると感じるので、そこに全体的な評価を加味しても良いと思っている。

事務局： 農業算出額の評価であれば、旭市でもこれだけのランキングを取り続けていますので、そこは評価の中で1つランクを上げてはどうかとの議論も確かにありました。しかし、次の第3期総合戦略でも同じKPIを設定しているところで、継続して頑張っていくためにあえて厳しく評価しようというところで記載しています。今回は、平均値で比較しているところが多くありますが、意見をいただいた箇所については、もう少し説明を加えたうえで評価を上げるなど、事務局のほうで一度検討させていただければと思います。

委員： 合計特殊出生率の記載では県内3位であるが、目標設定があるのでC評価となってしまうことはわかるが、これはもうS評価でも良いと思っている。また、乳幼児の紙おむつ購入券の給

付件数は、出生数の減少で少なくなっているが、そこをどう評価するのか、この支援は子育て世帯にとっては良い評価をもらっていると思うので、件数は減っているが、引き続き支援していくなどを記載で触れても良いのでは。最後に、合同学習会の参加率だが、平成30年の状況のあと、全然回復してきていないので、例えば実施の仕方を変えてWEB開催にするなど、時代の流れも考慮した中で検討しても良いと感じた。

事務局： 合計特殊出生率の評価について講評の記載も含めて事務局で検討したいと思います。また、合同学習会の参加率は確かに回復していないという現状がある中で、当日の天候もあり去年は2回目の天気が良くなかったと聞いています。そういったところも含めて今後どうしていくか検討したいと思います。

事務局： 故郷創出プロジェクト「資料1-3 重点施策マネジメントシート」「資料2 重点プロジェクト総合評価」について説明

委員： ホームページのアクセス件数について、新型コロナウイルス感染症関連ページのアクセス数が減ったことは確かに大きな理由だと思う。それと、旭市公式LINEによる情報発信により直接ページにアクセスするためトップページの件数が減ったとあるが、それがどのくらいの割合なのかはアナリティクスで正確な数が把握できる。あと、これからはKPIでLINEの登録者数を、ブロックを除いた数値で見えていくと思うが、加えてメッセージを配信してどのくらい読まれたかとか、エンゲージメント率を見えていくことも検討してほしい。

事務局： ホームページのアクセス件数ですが、担当課へエンゲージメントによりLINEからの件数を把握できるか確認します。また、LINEの登録者数はブロック者を除いた件数で今後把握していきます。

委員： 転入世帯数の関係で、現在、住宅ローンが伸びている。一軒家の値段が上がっていて、そうになると夫婦共働きでも、なかなかハードルが高く新築が建ちにくいと思う。また、不動産業者から聞いたが、場所によるが分譲の申請をすると水圧の関係もあって1件なら良いが4件はダメですと言われるとのこと。分譲が増えると人が増えるかという移動もあるので一概には言えないが、住むところが増えないと、人も増えていかない感覚もある。水道管は老朽化の問題もあり、簡単ではないと思うが、状況でもう少し分譲の許可の仕方を柔軟にしてほしいという声はある。

事務局： 確かに、大きな土地を4分割することで、移住者等にとっても住むところの選択肢が増えると思います。水道を管理する担当課では老朽化に対し布設替えを計画的に実施しています。水道管も相当な距離が埋設されていますので、重要といわれる部分の工事を進めているところでありまして、不動産業の方からの声は担当課と共有をさせていただきます。

委員： ふるさと納税について、旭市の農畜水産物は全国的に有名で、積極的に活用してもらって税収を増やすという施策をより進めることで市の財政を活性化できるのではないかな。

事務局： ふるさと納税は全国的にも注目されている事業だと思います。寄附が伸びれば貴重な自主財源になりますので、目標額を毎年上げている状況です。本市は農畜水産物がとても豊富でありますので、現在、さらに魅力ある返礼品を増やすために掘り起こしを行うとともに、インターネットなどから注目を集められるように工夫をしているところです。

委員： 旭市のふるさと納税は、今年からは民間と連携していくと聞いているので、とても期待している。9月までは寄附にポイントがついたこともあって伸びたと思う。またロケ誘致によるPRとあわせて、特産品などが増え納税額が増えていくと良い。また、観光大使ですが、椎名佐千子さんとか桂竹千代さんに情報発信を依頼すると記載があるが、どういう方法かな。

事務局： ふるさと納税については、今年から新たに中間事業者と契約し、かなり細かく市内を回ってもらっています。返礼品は市内事業者の協力が大事です。品数も増えていきますし、前年度の上半期と比較しても伸びていますので引き続き取り組んでいきます。また、観光大使ですが、お二人は市外在住です。こちらに来ていただいた時とか、旭市の特産品をぜひ発信してもらえようをお願いしています。ちょっとしたきっかけでふるさと納税が伸びたりしたり、跳ね上がったりしますので引き続きPRの機会を大事にしていきます。

委員： ホームページのアクセス件数は、例えばニュースなどで一時的に話題となった場合に、どんな市なんだろうと検索したらそれも数に含まれるのかな。

事務局： どういった目的でご覧になるかまでは把握できませんが、あくまで市のホームページのトップにアクセスされた場合は含まれます。

委員： 観光大使を選ぶ基準を教えてください。芸能、文化、スポーツ選手なのか、有名な方はたくさんいると思う。PRをお願いするのなら旬な人に任期をもってお願いするほうが良いと思う。

事務局： 基準としては、第1に旭市出身の方であるということ。市長が委嘱をしていますが、特に分野や推薦なのかなど特に決まりはありません。例えば旬な方ということですが、任期なども設けていませんので、慎重にという部分もあり、良い方がいましたら今後も増えていくと思います。末永く旭市と一緒に育っていく、末永く旭市を発信してもらえることが大事だと思います。

委員： 市ホームページのバナー広告のところの媒体資料にアクセス数100万アクセスと書いてあるので、いずれ訂正をした方が良いでしょう。また、あさピーのインスタ投稿件数を成果指標としているが、先ほどのLINE登録者数と同じで、投稿件数だと増えるだけなので、「いいね」や、保存がどれくらいされているのかのエンゲージメントをKPIにしたほうが良いのかなと思う。

事務局： バナーの件と、あさピーのインスタ投稿件数のエンゲージメントについて、単純な発信件数では無く別の指標ということに関しては担当課と共有し検討させていただきます。

事務局： 安心形成プロジェクト「資料1-4と1-5 重点施策マネジメントシート」「資料2 重点プロジェクト総合評価」について説明

委員： 消防団について、市の行政改の中で再編を求められていて人員や車両削減に向けて委員会を立ち上げ進めていく。また、新たに女性消防団員が3名入団してくれましたので、今後も増員に向け、産業まつり等でPRしていきたい。

委員： 旭市の医療と福祉は素晴らしく、旭中央病院を起点として充実している。その中で、介護になる前の元気なお年寄りが活躍できる場所へ、デマンド交通を利用して他の人と交流したいときに、利用できる場所がなかなか無い。また老人クラブ会員数も減少傾向にある中で、孤立する高齢者が増えている。人口減少とともに、核家族化が進み、独居や高齢者世帯、そういう方たちをどうするのが大切である。次のステップとして、1つに老人クラブの位置づけが大事だと考えるが、そこへの検討が見えないがどうか。

事務局： 本市では介護認定率も低く非常に介護の部分がしっかりしていると思っています。しかしその手前の段階で、やはり老人クラブの位置づけが重要ですが、高齢者の方も団体でという考え方も何か変わってきているところもあると感じています。ただ一方で、通いの場をつくって老人クラブとリンクして広がっていけば良いと思います。孤立を防ぐところで、デマンド交通はどちらかという生活とか通院の足として行っているところではありますが、なるべく交流機会を増やすというのは確かに大きな課題でありますので引き続き考えていきたいと思っています。

委員： 災害時の避難場所は学校になっているが、その時に門の開け閉めなどはどうなっているか。よく近所の方が鍵を持っているとか聞くんが。

事務局： 多くの学校が避難場所になっています。学校以外のところもありますが、本市では直行職員ということで自宅が近い職員を指名しています。その職員は秘密の鍵ボックスを開けて入れる体制になっています。

委員： 老人クラブという言葉は使わないようにしていて、シニアクラブと呼んでいる。どこの自治体も減少していて、役員をやってくれる方がいない、旭市も同様ではないか。どうやって老人クラブを復活させていくのか難しいと感じている。私もクラブに加入しているが、とても楽しい。楽しいことを説明するが、元気な高齢者はなかなか加入されない。民生委員の方も大変だと思うが、それでも高齢者が孤立しないように、話相手に時々なってあげられるような取り組みを市で考えてあげてほしい。

委 員： コミュニティバスの年間利用者数があるが、利用者が多い時間帯はあるか。

事務局： 市内を4路線で運行しています。路線で多少違いがありますが朝の通勤、通院の時間帯である第2便（7時から8時台）、午後の1便あたりが多いです。バスのルートは難しいところもありまして、なるべく多くの方に乗ってもらえるように、電車のダイヤなども踏まえながら設定しています。

委 員： 先日、移住した方が、旭市は車がないと生活できないよね、コミュニティバスも乗ったら最後帰って来れないと話をしていました。その中で、皆さん横芝光町の成田行きバスは使っているそうで、いいよなと言っていた。その時に旭市のコミュニティバスは本数が少ないので無料にしても乗らないという話もあって、せっかく旭市20周年事業として実施したが残念だったと思いました。次に移住相談ですが、相談件数が横ばいであるが、良いのか。また、県主体の移住相談会なども参加できないことがあったとあるが、移住サポートセンターとも連携し、市が積極的に参加してほしい。最後に、みらいあさひ協議会ですが、現在、中心市街地の中で屋台活動など行ったりして、市でも注目してもらっていると思う。また、おひさまテラスでも人が集まるように展開している中で、まだまだ行ったことがない人もいるが、まず文化活動で利用してもらおうような取り組みを積極的に進めていきたい。それと、移住者の方のコミュニティの面で、けっこう退職された年代の方も多くいる中で、地域おこし協力隊が行っている移住者交流会が友達を作ったりする交流の場になっていると思う。

事務局： みらいあさひ協議会には、市の職員も毎月1回参加しています。今は市だけで何かをするというのが難しくなっていますので、旭市を良くしたいという同じ思いを持っている人達が集り、引き続きまちづくりを進めていきたいと思っています。

委 員： 総合評価ではDとなっているところもあるが、市の施策としては間違っていないと思っているので、今後の展開も含めて市民の皆さんに分かりやすく発信してもらいたい。

委員長： 会議もだいぶ長時間になってきました。一度休憩も必要かと思いますが、この後、予定している資料の説明はどうしますか。

事務局： 本日、説明を予定している資料はまだいくつかありますが、時間も長くなってまいりました。大変恐縮ですが、この後説明を予定している資料については、本日配布しました意見書にて後日提出をしていただくというかたちを取らせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

委員長： 委員の皆様いかがでしょうか。

（異議なし）